

# 学校外の人材を活用したキャリア教育実践モデル

学年 5・6 教科・領域 体育 単元・題材等 水泳

単元・題材等の目標 互いに協力して安全に気を付けながら、課題をもって練習を工夫したり、クロールや平泳ぎで続けて長く泳げるようにしたりして、水泳を楽しむ。

○活用できる学校外の人材と内容等

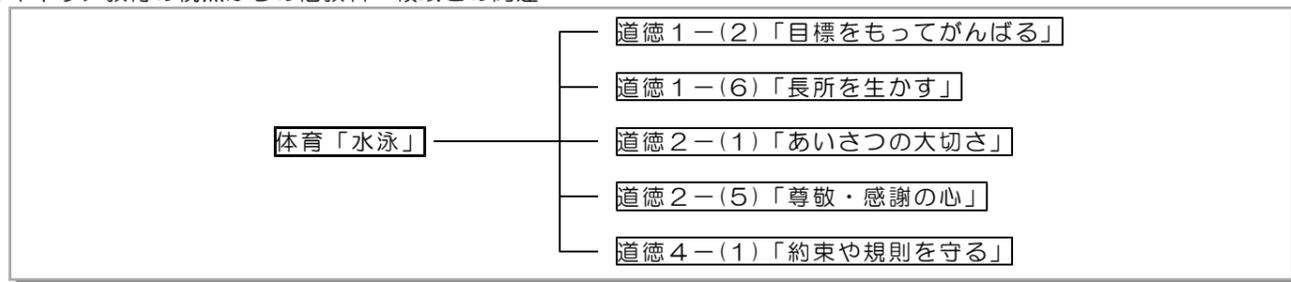
スイミングスクールの水泳指導員など  
\*来校してもらい、プールで実技指導をしてもらう。

○キャリア教育の視点から本単元・題材等で育成することが期待される能力・態度

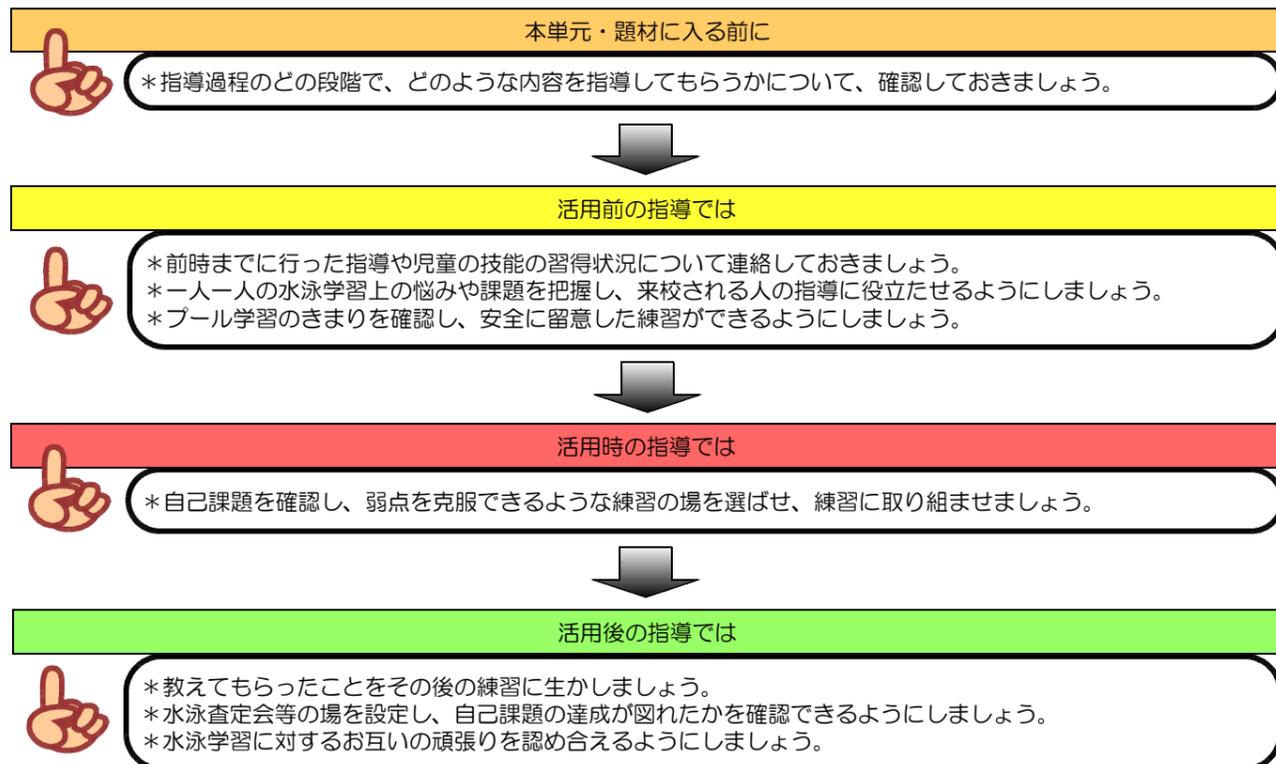
\*太字は、学校外の人材活用により育成が期待できる能力・態度

- ・自分のよいところ、上手なところに気付き、自分らしさを発揮する。【**自他の理解能力**】
- ・水泳を教えることを職業としている人のいることが分かる。【**情報収集・探索能力**】
- ・水泳学習上の自分の悩みを教師や保護者に話す。【**選択能力**】
- ・水泳学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。【**課題解決能力**】

○キャリア教育の視点からの他教科・領域との関連



○学校外の人材を活用するポイント



○学校外の人材を活用する指導の流れ

活用前の指導  
①できる泳ぎを上手にしたり、不得意な泳ぎに挑戦したりして、水泳を楽しもう  
◆今できる泳ぎ方や距離を知り、課題を決め、練習に取り組む。

学習活動	指導上の配慮事項
●学習の内容やねらいを知り、見通しをもつ。	○安全には十分留意し、きまりを守らせて練習させるようにする。
●試し泳ぎをして、学習上の課題を見つける。 【 <b>選択能力</b> 】 【 <b>課題解決能力</b> 】	○試し泳ぎをして課題を見付けさせ、自分に合った目標をもたせるようにする。
●泳力をもとに、グループ編制を行い、練習に取り組む。 【 <b>自他の理解能力</b> 】 【 <b>課題解決能力</b> 】	○個々の水泳学習上の悩みを聞く場を設けるようにする。
	○個々の泳力には違いがあることを助言し、最善の努力をしていけるようにさせる。

評価の観点 ・安全に留意し、試し泳ぎをして自分の課題を知り、自分に合った目標をもつことができる。

活用時の指導  
②不得意な泳ぎ方に挑戦しよう  
◆自分の目標に向けて、弱点を知り、克服していくよう練習に取り組む。

学習活動	指導上の配慮事項
●はじめのあいさつをする。	○来校された人を紹介し、あいさつをさせる。
●不得意な泳ぎに挑戦し、練習に取り組む。 【 <b>情報収集・探索能力</b> 】 【 <b>選択能力</b> 】 【 <b>課題解決能力</b> 】	○本時の学習内容、方法を説明する。
●2人組等でお互いの泳ぎを見合って正しい泳ぎができていないか伝え合う。 【 <b>自他の理解能力</b> 】	○教師は、個別指導や安全指導等を十分に行う。
●片付けを行い、終わりのあいさつをする。	○どんなところが上手くいかないのか、自分の目標はどのような点にあるのか等を確認させながら練習させる。
	○自分たちの泳ぎを友達同士で見合い、どこを変えていけばよいのか教え合うように助言する。
	○泳ぎのポイントやコツを教えもらい、自分もできるようにやってみましょう。
	○本時の学習内容のまとめを行い、お礼のあいさつをさせる。

評価の観点 ・自己課題の克服や自己の目標に向けて、練習に取り組むことができる。

活用後の指導  
③自分の力に応じて距離の目標を決めて泳いで楽しもう  
◆水泳査定会を行い、泳ぎを見合って、互いのがんばりを認め合い、学習のまとめをする。

学習活動	指導上の配慮事項
●教えてもらったことを思い出しながらか、自分ができるようになった泳ぎ方、距離で練習に取り組む。 【 <b>自他の理解能力</b> 】 【 <b>課題解決能力</b> 】	○教えてもらった内容やポイントについて思い起こさせながら、練習に取り組ませる。
●水泳査定会を行い、友達の泳ぎを見合う。	○「教えてもらったことはどんなことでしたか？ポイントはどのようなことでしたか？」
●新しい泳法で泳げるようになりました。距離も以前より長く泳げるようになりました。	○「みんなだいが泳ぎが上達しましたね。」

評価の観点 ・教えてもらったことを、その後の練習に生かしている。  
・水泳査定会等を通して自己課題の達成が図れたかを自己評価することができる。